おんがく広場 第138号
令和3年(2021) 7月28日(水)
発行・クッキー会 発行責任者・加藤良一
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい 令和2年(2020)4月10日創刊 連絡先 rkato@max.hi-ho.ne.jp

茨城県吹奏楽コンクール開催
新型コロナウイルス感染症対策

吹奏楽コンクールが全国で開かれています。茨城県では地区大会が7月17日～25日に開催されました。県大会は8月7日～11日水戸市で行われます。感染対策の基本は合唱と同じですが、たくさんの楽器を使用するためにいろいろ制限が盛り込まれています。

⊙会場開催できなくなった場合は動画審査に⊙

大会は、通常通りステージ上での演奏が基本ですが、①県から大会中止の要請があったとき、②茨城版コロナ対策指針のステージ4と判断されたとき、③茨城県に緊急事態宣言が発令されたとき、④会場より使用を制限されたとき、⑤主催者がステージでの演奏困難と判断したときには、動画審査へと変更します。

◆関係者に陽性者・濃厚接触者が出た場合

関係者に陽性者や濃厚接触者が出たときは、保健所と相談のうえ校長など責任者の判断により決定します。指揮者を含め陽性者・濃厚接触者は出場できません。但し、濃厚接触者以外は出場可です。

団体としてステージ演奏が不可能となった場合は、動画審査とします。また、学校、大学、職場で陽性者が出た場合、休業中においては、ステージ上での演奏はできません。臨時休業実施の規模および期間が決定された場合、該当規模および期間に当てはまる団員は出場できません

◆演奏可能の判断基準

〇陽性者：保健所の指示を基本とし、厚労省の退院対象基準を満たしていること
〇濃厚接触者：PCR検査陰性であり、陽性者との最終接触から14日経過後、体調等に異常が見られないこと
〇陽性者・濃厚接触者以外：参加可

◆ステージ上の制限

〇ステージ配置：椅子・譜面台は固定、移動禁止
〇消毒・換気：前団体演奏終了後、6分間の間隔を取り、椅子・譜面台等の消毒と換気を行う
〇音出し不可：演奏時以外はティンパニー含め音出し不可

◆ホール内での鑑賞

1団体ごとの入れ替え制で、入場券はあらかじめ希望数を申し出て確保します。他団体の演奏を聴くことはできません。コンクールの模様は審査発表も含め、有料でLIVE配信されます。

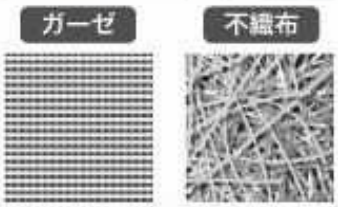
◆結露水を床へ落とすのは禁止

一般的な感染対策である入館時検温、マスク着用、ソーシャルディスタンス、こまめな手洗い、手指消毒、咳エチケットなどに加え、陽性者が発生した場合、その陽性者と接触した可能性がある方に対して注意喚起の連絡をするシステム「**いばらきアマビエちゃん**」への登録を推奨しています。

また吹奏楽ならではの問題として、楽器置き場、練習場所、ステージなど、すべての場所において演奏時に生じる結露水を床や地面に落とすことを禁止しています。結露水は、スワブ・クリーニングペーパー・タオル・ペット用シート等に吸収させ、結露水を処理したものは持ち帰ることとされています。ペット用のシートは漏れにくいので便利かも知れません。

そもそも不織布ってなに？

マスクには、さまざまな種類があることは周知のとおりです。新型コロナウイルス感染症発生以降、私たちはマスクについてどれほど大変な思いをしてきたことでしょうか。試行錯誤、紆余曲折を経て、現在では医療用を除けばほぼ家庭用**不織布マスク**に落ち着きました。今さらですが、不織布のどこが良いのかあらためて確認してみましょう。



ガーゼ布はガーゼを30枚ほど折り重ねて作られたもので、一方、不織布は文字通り織らない布で、繊維同士を何らかの方法で結合してシート状にしたものです。不織布は、繊維が緻密なものから粗いものまで、厚みや柔らかさ、耐水性など自在に作れるという特長があります。

不織布マスクが優れている点は、液滴の捕捉能力が高く、耐水加工もしやすく、顔にフィットさせやすいことに加え、大量生産が可能なので安価なため使い捨てで頻繁に交換することができることです。

マスク選定の際に大切なのは、性能と顔へのフィット感です。マスク素材の性能は、**BFE、PFE、VFE**の試験結果が明記されていることで確認できます。顔へのフィット感はマスクを着用したときに隙間がないか、鼻や口がはみ出ていないか、マスクの内側に十分な空間があるかなどの確認がポイントです。ご自分に合ったマスクを(単なる見た目だけでなく)選ぶようにして下さい。

・BFE(細菌ろ過効率)：細菌を含む4.0～5.0μmの粒子を除去する割合
・PFE(微粒子ろ過効率)：0.1μmラテックス粒子を除去する割合
・VFE(ウイルスろ過効率)：約1.7μmの粒子(一般的なウイルスやウイルスを含んだ飛沫など))を除去する割合